



←全国の強豪校と重圧をはねのけ、大会で2年連続の優勝を果たした御船高校マイコン制御部ロボット班 33人
↓御船高校マイコン制御部に熱い声援を送った東京御船会の大応援団約40人（東京御船会提供）



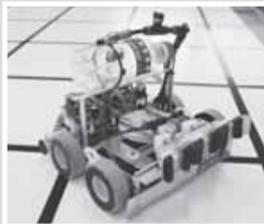
ロボコン王国のプライド 2年連続6度目の日本一

第18回全国高等学校ロボット競技大会

Mifune high School

Robot

2010 version



↑ラインをプログラムで読み取り課題をクリアして自走する自律型「黄門ロボット」。高度なプログラム技術が要求される。大会で使用したロボットは14号機にのぼる



←課題エリアに「黄門ロボット」を運ぶため生徒が操縦するリモコン型「助さん格さんロボット」。熟練した操作技術に加え、ナビゲーターとの息の確かな判断が必要

Interview



マイコン制御部顧問 小松 淳 教諭

今大会の自律型ロボットは異種競技で不安もありました。マイコンカー班からプログラムを教わり、例年以上に試作を繰り返しました。夏休みもほぼ毎日ロボット製作でしたが、生徒一人一人の意識が高く、一つの目標に向かいチームみんなで勝ち取った優勝といえます。保護者や同窓会からの応援も心強かったです。

マイコン制御部長 清水 翔太 (滝尾・3年)

昨年、先輩たちが全国制覇を果たしましたので、連覇を目指して頑張りました。今大会は、自律型ロボットが導入された大会でした。ラインを読む機械のため、リモコン型ロボットで正確なライン調整を心がけて、持ち前の力を発揮できました。先輩たちには、学校の名に恥じないようV3を目指して欲しいです。



「御船C with シロ」の1年生コンビ

オペレーター 清水 龍成 (滝尾・左)
ナビゲーター 灰塚 慎 (陣・右)



いつもどおりの練習を心がけて、声が出るようにしながら、二人の息を大事にして大会に挑みました。試合では緊張しましたが、先輩たちがリラックスさせてくれました。優勝したからといって天狗にならず、初心に戻って一から頑張ります。そして、V3を目指したいと思います。

高度なロボット設計と操作技術の総力で競い合う全国高校ロボット競技大会（文部科学省など主催）が10月17日、茨城県つくば市で開催され、御船高校（小林博校長、702人）の「御船C with シロ」が優勝して、2年連続6度目の全国制覇を成し遂げました。



全国最高峰のメカニックDNA

御船高校マイコン制御部ロボット班は昨年11月、グランメッセ熊本（益城町）で開催された県ロボット競技大会で上位を独占し、9年連続9回目の全国への切符を4チームが手にしていました。

そして迎えた全国大会では各地域を勝ち抜いた強豪校135チームと激突。

競技は、開催地の茨城県にあやかり水戸黄門をイメージした内容。プログラムを駆使して自走する自律型の「黄門ロボット」と、生徒が操作するリモコン型の「助さん格さんロボット」の2台を使用。コースは、高低差のある3面の課題エリアが用意。各エリアに設置された「悪代官」のキャップをコース外に落とし、スタート地点に戻るまでの得点とタイムで競いました。

御船高校は予選から、1位から4位までを独占。さらには出場チームで唯一1分台をきる好タイムをたたきだします。予選を通過した36チームで競う本選2試合でも、1位から上位に入り、4チーム揃って決勝進出を決めました。

決勝は、3試合を勝ち抜いた8チームのハイレベルな戦い。予選から本選までをすべて1位で通過し、優勝大本命と見られた「御船A with ポチ」にまさかのマシントラブルが発生。そうした息詰まる展開を制したのは、「御船C with シロ」で、1年生コンビの清水龍成くん（滝尾）と灰塚慎くん（陣）。持ち前の冷静さと巧みな試合運びのパートナーゲームで全国の頂点へと勝ち上がりました。

なお、大会の主な成績は次のとおりです（敬称略）。

▼優勝

御船C with シロ ▼清水龍成 ▼灰塚慎 ▼桑津鉄矢

▼準優勝

御船B with タマ ▼森

翔 ▼佐々木優 ▼松岡昂佑 ▼

▼3位

御船D with トム ▼米

里瞭太 ▼沖田晃史 ▼鳥井貴

式 ▼黒田幸希 ▼富田一宇

▼6位

御船A with ポチ ▼清

水翔太 ▼沼光崇 ▼松永拓也

▼古寺祐介 ▼藤由溪太郎